

設計のコンセプト (考え方)

「対話と協働を生む施設」

市の特徴である「対話と協働」を大切に、協働的な学びが自然と生まれる施設とします。



基本設計のポイント

※イメージは変更となる場合があります。

「ワタシ」をつくる「イエ・マチ・セカイ」

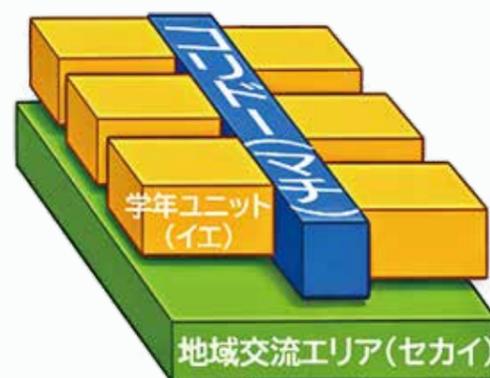
子どもの気づきや多様性を尊重し、成長に寄り添った施設とするため、施設全体を家（イエ）や街（マチ）、世界（セカイ）に例えたエリアに分けています。子ども個人の感覚や興味、成長段階に応じて、居場所や学ぶ場所を選べる環境を整え、さまざまな経験をとおして「ワタシ」をつくることのできる施設とします。

- ▶「学年ユニット」は子どもが安心して活動ができる「イエ」として捉え、個別学習、グループ学習、学級活動、学年活動が充実する場所とします。
- ▶「イエ」から出た子どもたちが交流する「マチ」では、教科の展示物や教材といった「学びの種」を散りばめ、年齢ではなく興味のあるものでつながることができる空間とします。
- ▶さらなる出会いや体験を求めて、より多くの人とつながることができる「セカイ」へ出ることで、多世代との交流を通じて多様な学びが広がります。



▲コリドー（廊下）のイメージ図

学年ユニット (イエ)	教室の学年ごとのまとまりである学年ユニット。個の学びにあった環境と、グループ学習などの協働的な学びにあった環境を両立しています。
コリドー (マチ)	学年ユニットをつなぐコリドー（広い廊下）。図書館や学習室、展示スペースによる新しい知識の習得や体験ができる空間とし、学年に縛られない自由な交流を促します。
地域交流エリア (セカイ)	1階は中央にピロティ※や多目的ホールを設け、特別教室を集約し、地域の活動と学校の活動が交わる空間とします。



▲校舎をエリア分けしたイメージ図

※ピロティ：建物の1階部分に壁を設けず、柱で上階を支えた、雨天時も利用できる半屋外空間

みんなで作る Vol.5 ミライの学び舎

市立小学校8校、中学校2校を再編し、新たにつくる「義務教育学校」の榛原・相良地域それぞれの進捗について、お知らせします。

問い合わせ

学校再編推進室 徳原 ☎2640

榛原地域義務教育学校（イメージ） ※イメージは変更となる場合があります。



榛原地域

榛原地域義務教育学校の基本設計が完了しました

施設のコンセプト (考え方)

「地域と共に わくわく学び・体験できる みんなの学校」

新しくつくる榛原地域義務教育学校は、子どもがやりたいことにチャレンジできる環境を整え、人とのつながりをとおして、こころざしを持つ「ワタシ」を育む学校です。

「ワタシ」とは、子ども一人ひとりのこと。いろいろな個性や多様性が尊重される中で、保護者や地域を始めとする多様な人、考え、ものなどとの関わりをとおして、子どもの気づきや自己肯定感を育みます。

「ワタシ」を育み、地域の人たちと共に、楽しくわくわくするような学びや体験を通じて成長でき、子どもが「学校が楽しい」と思うことのできる施設とします。



イメージ図

相良地域

埋蔵文化財の発掘調査を実施しています

相良地域義務教育学校の予定地の近くには遺跡が3カ所あるため、令和7年度から令和10年度上半期まで、土器や住居の跡がないか発掘調査を実施しています。



発掘調査

Q.何の遺跡があるの？

- ・正福寺遺跡
- ・天の川遺跡（北区・南区）
- ・園横穴群



Q.埋蔵文化財の発掘調査では何をしますの？

地面を掘り、昔の道具や建物の跡がないか調べ、見つかったものを写真や図などの記録にして保存します。

令和8年度から榛原地域義務教育学校の開校準備が始まります

関係者で構成する「開校準備委員会」を設置し、教育目標や校名、校章、行事、PTA組織、通学路やスクールバスの運用などについて検討します。

今後の主なスケジュール(予定)

榛原地域は令和12年度、相良地域は令和15年度の開校を目指して進めています。

年度	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033
榛原地域	実施設計				義務教育学校 開校			
		造成工事						
		建築工事						
	*開校準備・通学方法検討				既存施設解体 ・駐車場整備			

年度	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033
相良地域			造成工事		義務教育学校 開校			
			基本設計・実施設計			建築工事		
			進入路整備					
	発掘調査			*開校準備・通学方法検討				

*スケジュール(予定)などは、状況により変更となる場合があります。

▶学校再編について詳しくは、市ホームページをご覧ください。



榛原地域

基本設計のポイント

※イメージ図は変更となる場合があります。

学校全体が学びの場

教室だけでなく、校舎と体育館全体に空調設備やWi-Fiを整えた「どこでも学べる環境」をつくります。

また、季節による光や風の入り方や校舎の構造が目に見えるようにすることで、施設自体が「学びの場」となる仕掛けがある施設とします。



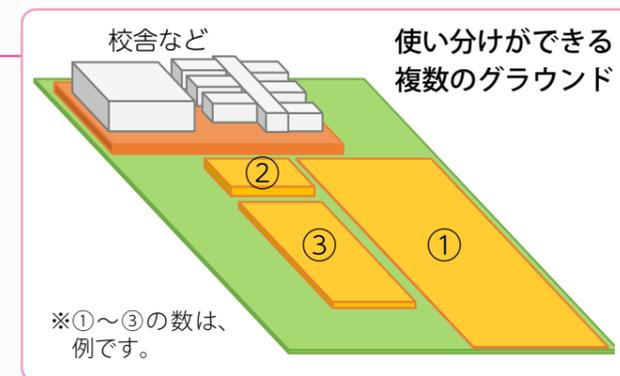
地域との協働

体育館や武道場、グラウンドに加え、校舎の1階には地域開放エリアとして、ピロティや多目的ホール、特別教室など地域の人が利用できる部屋やスペースがあります。地域と子どもたちとの交流の場となり、地域の行事やイベントにも活用できます。



多様性と可変性のある施設

1年生から9年生までが同じ学校で学ぶため、子どもたちの体格や学習内容に応じて使い分けができるよう、広さや高さ、形状が異なる複数の体育館やグラウンドをつくります。さらに、将来的な学びやクラス数の変化にも対応できるように、2つの教室を1つにするなど、間取りを変えやすい配置や構造とします。



安全で安心できる施設

校舎部分は、1,000年に1度起きる恐れのある大雨でも浸水しないよう、地盤のかさ上げ(約1.5メートル)を行います。災害時には避難所として使用しやすい配置とし、体育館は防災倉庫や災害時にも使用できるガス式のエアコンを備えます。また、子どもと地域の動線を分け、校舎の出入り口を限定するなど、防犯面や安全性にも配慮しています。

1階 避難所エリア

